

## 第2展示室出品作品リスト

作家名	タイトル		サイズ 縦×横 cm	素材等	解説	宮本三郎記念デッサン大賞展
町田久美	untitled	※中央作品	50×66	シルクスクリーン、紙	町田のラクガキを面白がったデンマークの版画職人がテストで刷ったもの。	審査員
		※中央作品外	A4以内 290×210以内	鉛筆、ペン、墨、紙	日頃のラクガキ。アイディアが詰まるダイレクトな表現群。普段めったに見ることができない貴重なもの。	
前田昌彦	ポントワーズの河畔		36×45	コンテ、紙	フランス留学時の貴重なデッサン群。	実行委員
	ジスレーヌ嬢（上段）		19.1×16.9	鉛筆、紙		
	ジスレーヌ嬢（下段）		19.2×27.5	鉛筆、紙		
	シャルトル大聖堂（上段）		18.2×21.5	鉛筆、紙		
	ノートルダム大聖堂（下段）		26.5×34.1	水彩、紙		
鈴木康広	パラパラマンガ 1998-	バネロール	93×70	ペン、インク、紙	鈴木康広は、新しい「モノの見方」を提案するアーティスト。鈴木が学生時代から続けているパラパラマンガは、自身の作品づくりの原点となっており、100種以上がある。 パラパラマンガは見る人がバラバラとめくって見ることで作品に命を与える。作品と人が関わって欲しい願いが込められている。	審査員
		りんごの屈折	93×70			
		地球のゴルフ	93×70			
		表裏の箱	93×70			
		はばたく椅子	93×70			
		残像のとりかご	93×70			
		バツタのバネ	93×70			
		豆の記憶体	93×70			
		じょうろと蛇	93×70			
		まばたきとはばたき	93×70			
		蛇口と水平線	93×70			
		ゴルフボールの満ち欠け	93×70			
		ひょうたんの姿見	93×70			
		天窓の人々	93×70			
		線の記憶	93×70			
		つえの傘	93×70			
		溶ける車	93×70			
		表裏のチューブ	93×70			
ファスナーの舟	93×70					
タイミングアップル	93×70					

作家名	タイトル		サイズ 縦×横 cm	素材等	解説	宮本三郎記念デッサン大賞展
小澤基弘	untitled	※ガメラ 右端	45×30	アクリルガッシュ、クレヨン、カラーインク、墨、紙	小澤のドローイングは、彼の興味をもつ対象物や受けた感覚が如実にアウトプットされる。本作はゴジラ・ガメラなど好きなモチーフが描かれたもの。	審査員
		※右から2番目	40.5×30	アクリルガッシュ、クレヨン、カラーインク、墨、紙		
		※ゴジラ 右から3番目	30×40	アクリルガッシュ、クレヨン、カラーインク、墨、紙		
		※仮面ライダー 左から3番目	38.8×27	油アクリルガッシュ、クレヨン、カラーインク、墨、キャンバス		
		※左から2番目	39.5×29	アクリルガッシュ、クレヨン、カラーインク、墨、キャンバス		
		※面倒な戦い 左端	33.5×25.5	アクリルガッシュ、クレヨン、カラーインク、墨、紙		
荒井良二	untitled		63.8×46.8	クレヨン、水彩、鉛筆、紙	ワークショップ「どろせん」で即興的に描かれたもの。	審査員
横山真紀	花		103.0×145.6	紙、インク	斬新なデザインが目を引く。	実行委員
鈴木治男	水ぬるむ		31.5×40.0	墨、水彩、紙	鈴木表現の基本となっているドローイング群。長期にわたり自由な表現を提案し続けている。	実行委員
	スキマ		48.0×48.0	墨、紙		
	キングダム		46.0×46.0	水彩、色鉛筆、ペン、紙		
	ヒト		30.0×40.0	水彩、紙		
	群れる		36.0×36.0	水彩、紙		
山下晴子	untitled		80.0×200.0×H45.0	発砲スチロール	彫刻家による立体ドローイング。	実行委員
小澤基弘	ガシャガシャ物語		28×20	ペン、紙	ライフワークとなっている「ガシャガシャ物語」は、常にカバンに入っている冊子に、少しの時間を見つけて描いているもの。	審査員
荒井良二	ラクガキ帖		25.7×18.2	クレヨン、水彩、紙	2022年のワークショップで描かれた作品。絵本での表現とは違った味わいが感じられる。	審査員